令和6年度
ひとり暮らし高齢者
調査結果

令和6年10月　館林市高齢者支援課

館林市ひとり暮らし高齢者調査の概要と結果について

◆◆ 調査の概要 ◆◆

1 趣旨

館林市内のひとり暮らし高齢者の実態を把握し、今後の高齢者保健福祉対策等の基礎資料を得ることを目的として実施しています。

2 調査開始日と実施方法

毎年6月1日を調査基準日として、ひとり暮らし高齢者調査票に基づいて、原則、民生委員による直接聞き取りの方法により調査を実施しています。

3 調査対象者

在宅で生活している 70 歳以上のひとり暮らしのかたが対象者となります。

◆◆ 調査結果目次 ◆◆

◎ 全 体 結 果		･･･P1
設問1	相談できる人について	･･･P2
設問 2-1	夏の暑いときのエアコンや扇風機の利用について	･･･P3
設問 2-2	夏の暑いときの過ごし方について	･･･P4
設問3	水害時に避難情報を得られる手段について	･･･P5
設問 4-1	水害時に自分で避難できるかどうかについて	･･･P6
設問 4-2	水害時に避難を手助けしてくれる人がいるかについて	･･･P7
設問 5	水害時の避難先について	･･･P8
設問 6	避難するにあたり避難支援者の人数について	･･･P9

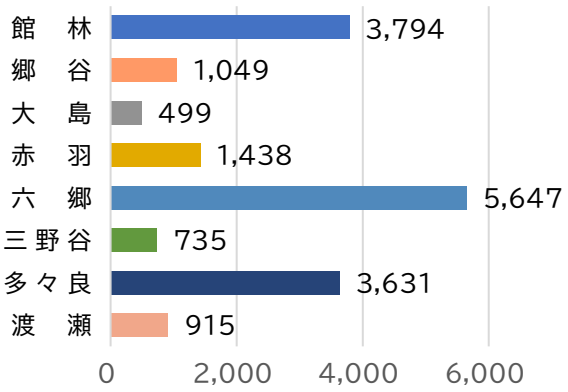
◇集計・分析にあたって、回答比率（%）は小数点第2位を四捨五入して算出したものです。したがって、回答比率を合計しても 100%にならない場合があります。

◎ 全 体 結 果

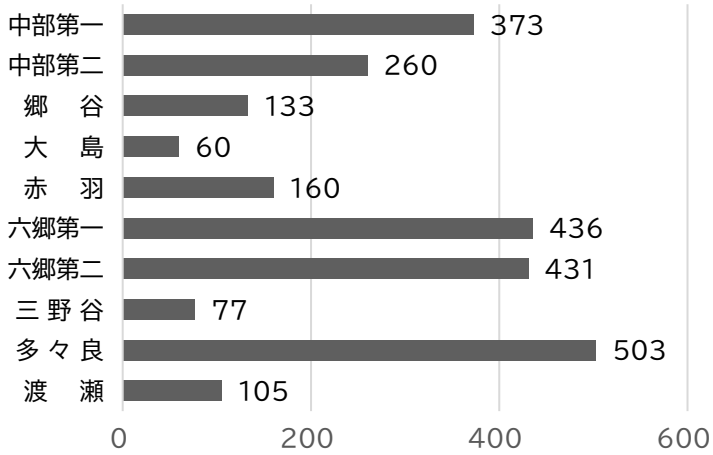
	70 歳以上高齢者		ひとり暮らし高齢者（70 歳以上）			
	R6（4.1 現在）	R5（4.1 現在）	R6（年度の割合）		R5（年度の割合）	
総　数	17,708	17,589	2,538	14.3%	2,470	14.0%
中部第一	3,794	3,803	373	9.8%	372	9.8%
中部第二			260	6.9%	279	7.3%
郷　谷	1,049	1,014	133	12.7%	118	11.6%
大　島	499	482	60	12.0%	55	11.4%
赤　羽	1,438	1,408	160	11.1%	153	10.9%
六郷第一	5,647	5,654	436	7.7%	429	7.6%
六郷第二			431	7.6%	414	7.3%
三 野 谷	735	729	77	10.5%	74	10.2%
多 々 良	3,631	3,591	503	13.9%	481	13.4%
渡　瀬	915	908	105	11.5%	95	10.5%

※地区について･･･館林地区→中部第一･中部第二　　六郷地区→六郷第一･六郷第二

70 歳以上高齢者数（人）



ひとり暮らし高齢者数（人）



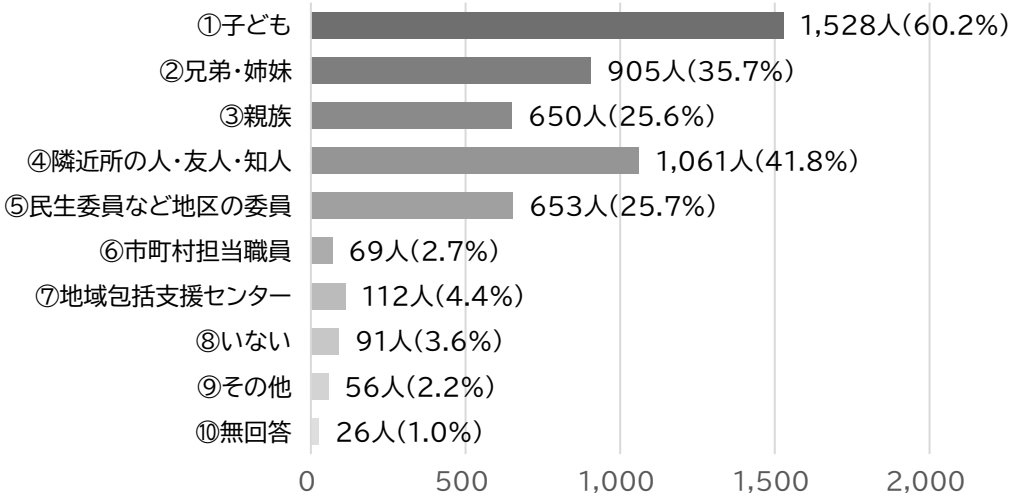
【分析結果･考察等】

･今年度のひとり暮らし高齢者数は、前回（令和 5 年度）の 2,470 人から 2,583 人へと、68 人増加した。全体としてみると、70 歳以上高齢者のうち、14.3%をひとり暮らし高齢者が占めている。
･地区別にひとり暮らし高齢者の比率を見ると、館林地区（中部第一･第二）が最も高く、70 歳以上人口のうち 16.7%を占めている。次いで、六郷地区（六郷第一･第二）、多々良地区が高く、全ての地区が 10%を上回っている。

設問1　地域での不安ごとや悩みごとがあるとき、相談できる人がいますか。（いくつでも）

No.	項目	R6 人数	R6 回答者数における割合	R5 人数	R5 回答者数における割合
①	子ども	1,528 人	60.2%	1,464 人	59.3%
②	兄弟・姉妹	905 人	35.7%	916 人	37.1%
③	親族	650 人	25.6%	618 人	25.0%
④	隣近所の人・友人・知人	1,061 人	41.8%	1,064 人	43.1%
⑤	民生委員など地区の委員	653 人	25.7%	616 人	24.9%
⑥	市町村担当職員	69 人	2.7%	57 人	2.3%
⑦	地域包括支援センター	112 人	4.4%	106 人	4.3%
⑧	いない	91 人	3.6%	117 人	4.7%
⑨	その他	56 人	2.2%	70 人	2.8%
⑩	無回答	26 人	1.0%	53 人	2.1%
－	調査有効回答者数	2,538 人		2,470 人	

※複数回答可のため、各回答者数における割合と調査有効回答者数は一致しません。

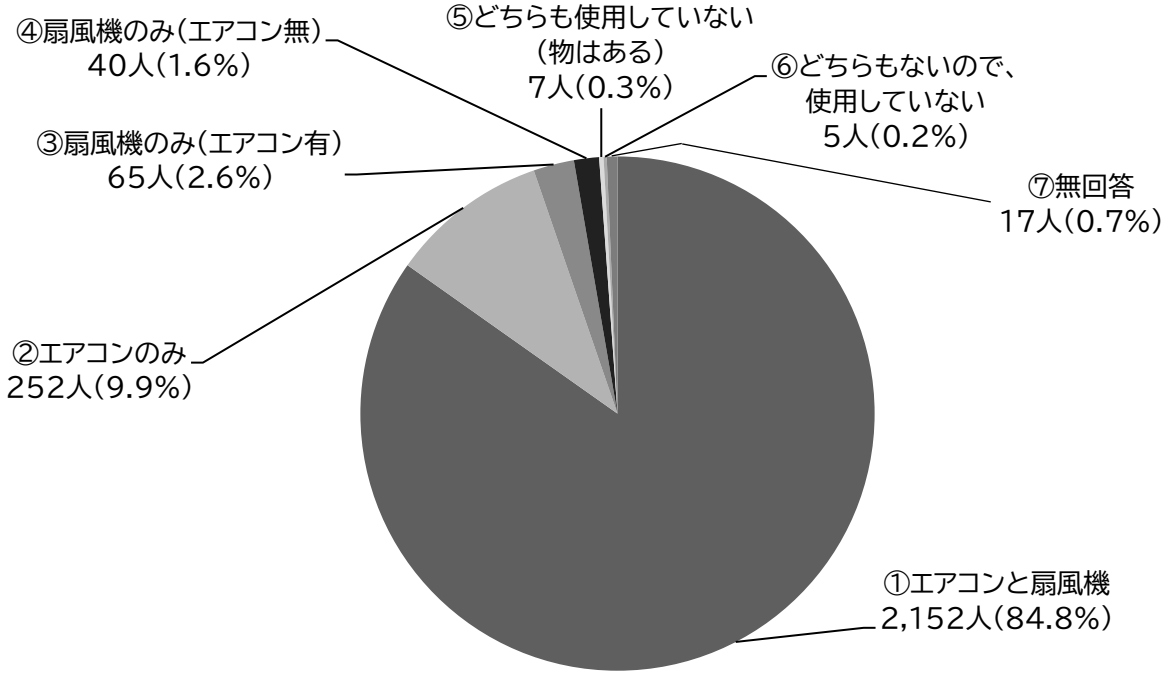


【分析結果・考察等】

・調査対象者の 60.2%が、「子ども」を相談相手として回答。次いで「隣近所の人・友人・知人」 の回答が 41.8%、「兄弟・姉妹」が 35.7%となっている。
ひとり暮らし高齢者にとって、子どもなどの親族が遠方であった場合には、地域の中で相談できる存在がいることは安心感や、孤独感の減少につながる。
・⑧「相談できる人はいない」の割合は、令和 5 年度と比べて 1.1 ポイント減少した。
・⑨「その他」の回答としては、介護サービスのスタッフやケアマネジャー、会社の人（上司や同僚）、友人などが複数あった。

設問 2-1　夏の暑いとき、エアコンや扇風機を使用していますか。（1つだけ）

No.	項目	人数	回答者数における割合
①	エアコンと扇風機	2,152 人	84.8%
②	エアコンのみ	252 人	9.9%
③	扇風機のみ（エアコン有）	65 人	2.6%
④	扇風機のみ（エアコン無）	40 人	1.6%
⑤	どちらも使用していない（物はある）	7 人	0.3%
⑥	どちらもないので、使用していない	5 人	0.2%
⑦	無回答	17 人	0.7%
－	令和6年度　調査有効回答者数	2,538 人	



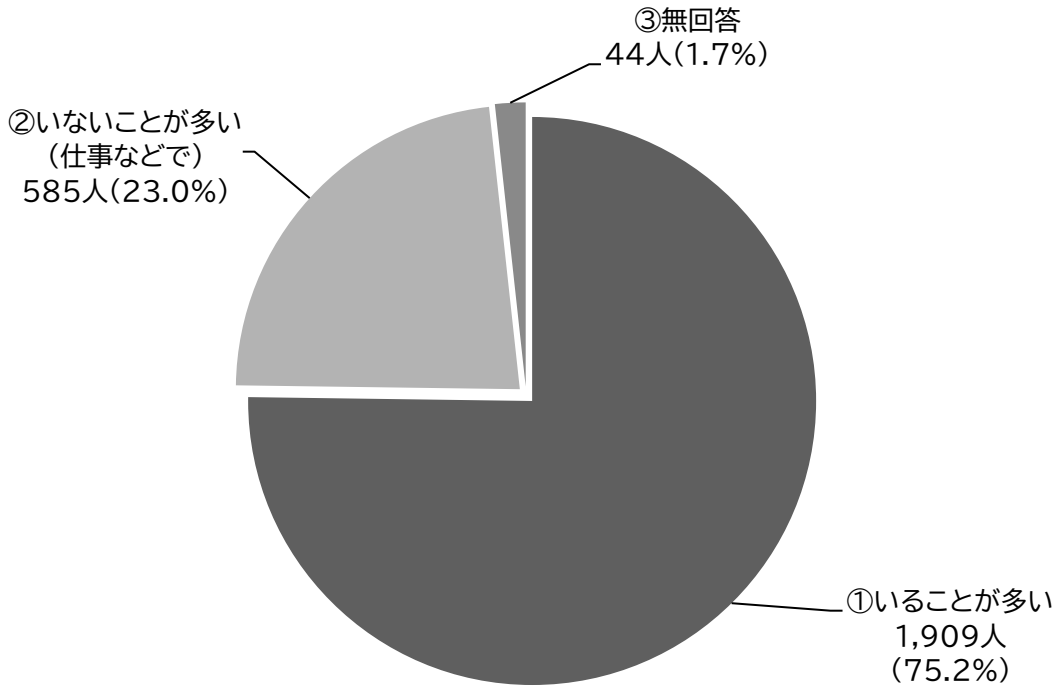
【分析結果・考察等】

・夏の暑いときのエアコンや扇風機の使用状況として、「エアコンと扇風機」「エアコンのみ」と回答したかたが 94.7%であった。令和5年度「エアコンを利用する」と回答したかた 93.3%よりも 1.4 ポイント増加している。

このことから市民の熱中症予防に対する意識が高まってきていると考えられる。今後も熱中症予防の対応策等について普及啓発に努めることとする。

設問 2-2　日中は家にいることが多いですか。(1つだけ)

No.	項目	人数	回答者数における割合
①	いることが多い	1,909 人	75.2%
②	いないことが多い(仕事などで)	585 人	23.0%
③	無回答	44 人	1.7%
－	令和6年度　調査有効回答者数	2,538 人	



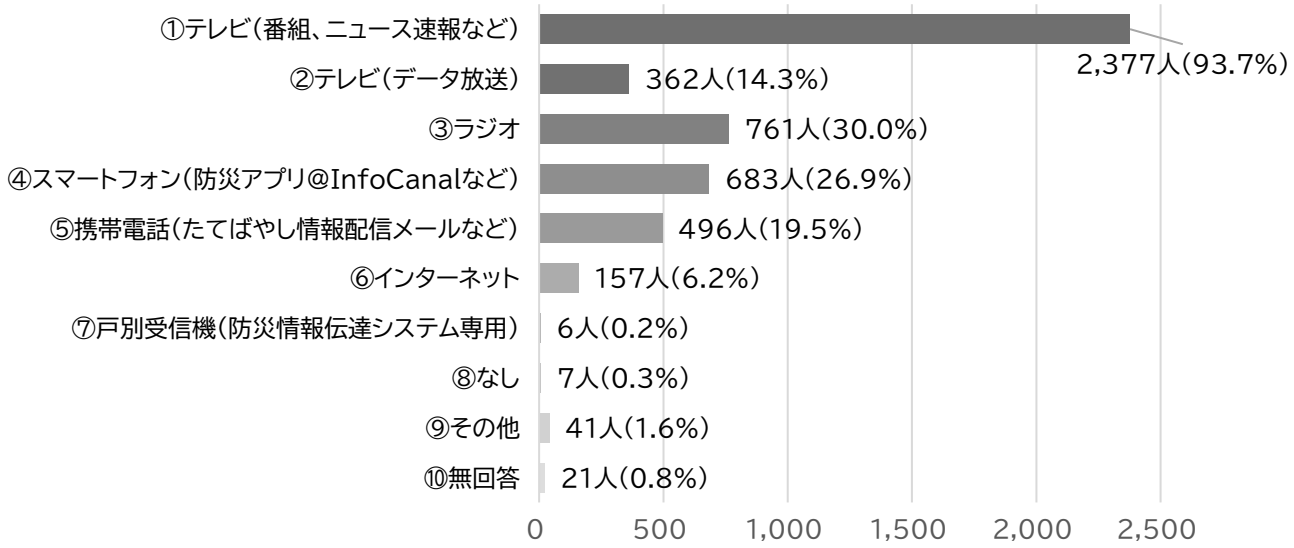
【分析結果・考察等】

・日中家に「いることが多い」と回答したかたが 75.2%、「いないことが多い(仕事などで)」と回答したかたは 23.0%であった。
このことから、家の中での熱中症対策同様、外での熱中症予防対策についても普及啓発を行っていく必要がある。

設問３　水害時に、避難情報を得られる手段はありますか。（いくつでも）

No.	項目	人数	回答者数における割合
①	テレビ（番組、ニュース速報など）	2,377 人	93.7%
②	テレビ（データ放送）	362 人	14.3%
③	ラジオ	761 人	30.0%
④	スマートフォン（防災アプリ@InfoCanal など）	683 人	26.9%
⑤	携帯電話（たてばやし情報配信メールなど）	496 人	19.5%
⑥	インターネット	157 人	6.2%
⑦	戸別受信機（防災情報伝達システム専用）	6 人	0.2%
⑧	なし	7 人	0.3%
⑨	その他	41 人	1.6%
⑩	無回答	21 人	0.8%
－	令和6年度　調査有効回答者数	2,538 人	

※複数回答可のため、各回答者数における割合と調査有効回答者数は一致しません。

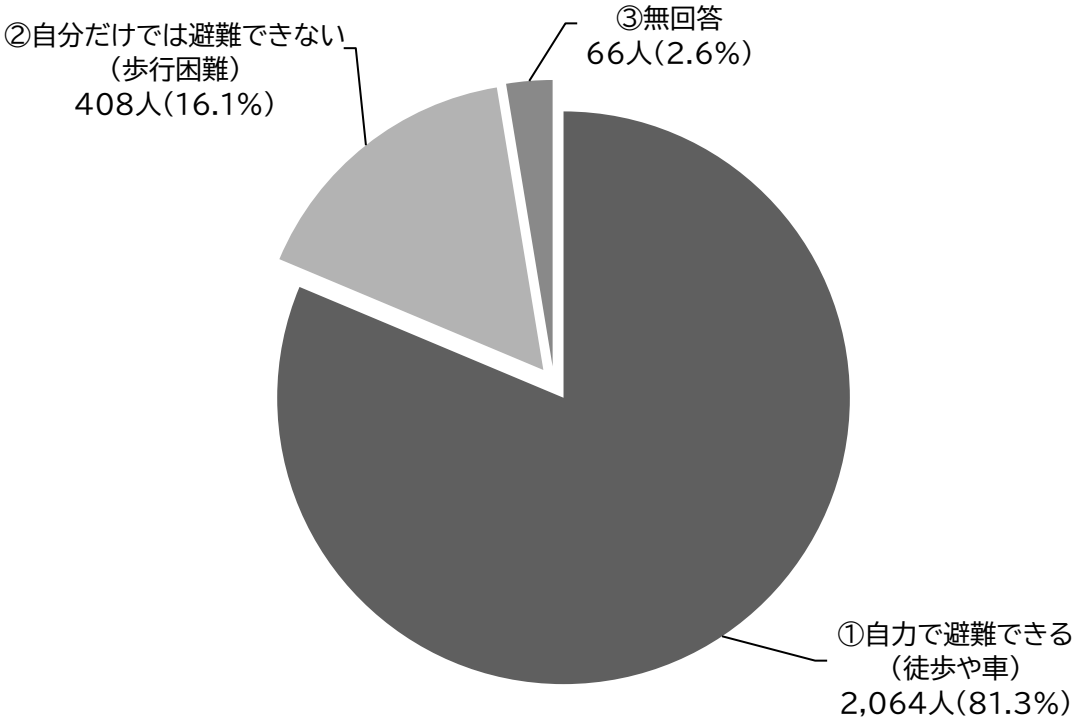


【分析結果・考察等】

・水害時の避難情報を得る手段として、「①テレビ（番組、ニュース速報など）」を選択する方が 93.7%、「③ラジオ」を選択する方が 30.0%と多い一方で、「④スマートフォン（防災アプリ@InfoCanal など）」を選択する方が 26.9%、「⑤携帯電話（たてばやし情報配信メールなど）」を選択する方が 19.5%となっており、スマートフォンなどの情報通信媒体から情報を取得する割合は、テレビなどの放送媒体と比較して少ない。

設問 4-1　水害時に自力で避難できますか。(1つだけ)

No.	項目	人数	回答者数における割合
①	自分で避難できる(徒歩や車)	2,064 人	81.3%
②	自分だけでは避難できない(歩行困難)	408 人	16.1%
③	無回答	66 人	2.6%
－	令和6年度　調査有効回答者数	2,538 人	



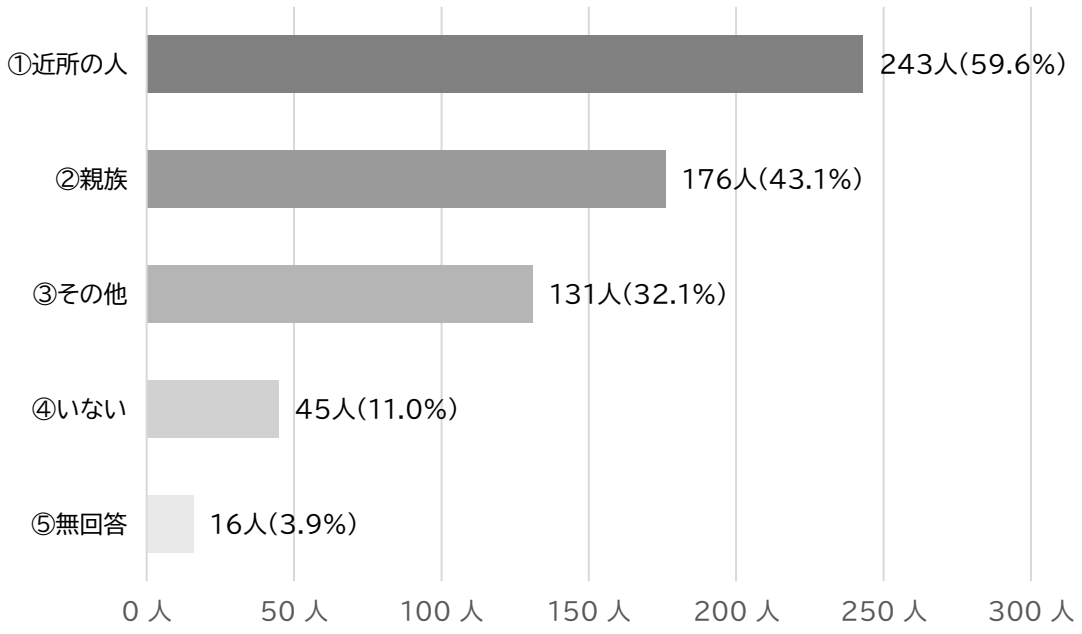
【分析結果・考察等】

・「①自力で避難できる」を選択した方が 81.3%を占める一方で、「②自分だけでは避難できない」と選択した方が 16.1%おり、水害時の避難において他者からの支援を必要とする方が一定数いる。

設問 4-2　水害時に避難を手助けしてくれる人はいますか。（いくつでも）

※設問 4-1 で「自分だけでは避難できない」と回答した方の回答

No.	項目	人数	回答者数における割合
①	近所の人	243 人	59.6%
②	親族	176 人	43.1%
③	その他	131 人	32.1%
④	いない	45 人	11.0%
⑤	無回答	16 人	3.9%
－	この設問の有効回答者数（※設問 4-1 で回答②を選択した方のみ）	408 人	



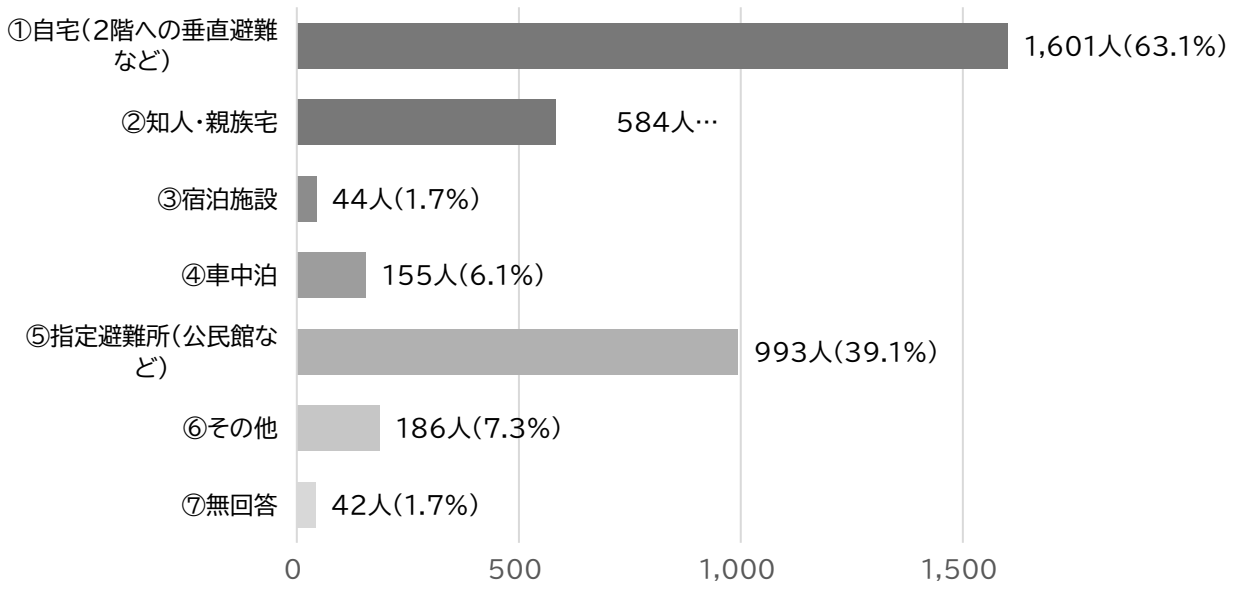
【分析結果・考察等】

・設問 4-1 で「②自分だけでは避難できない（歩行困難）」と回答した方のうち、避難を手助けしてくれる方がいる割合は、「①近所の人」が 59.6%、「②親族」が 43.1%となっており、自助・共助による手助けがもっとも多いが、「④いない」と回答した方も11.0%いることから、公的なものを含め、一層の支援が必要である。

設問５　水害時の避難先をあらかじめ決めていますか。（いくつでも）

No.	項目	人数	回答者数における割合
①	自宅（2階への垂直避難など）	1,601 人	63.1%
②	知人・親族宅	584 人	23.0%
③	宿泊施設	44 人	1.7%
④	車中泊	155 人	6.1%
⑤	指定避難所（公民館など）	993 人	39.1%
⑥	その他	186 人	7.3%
⑦	無回答	42 人	1.7%
－	令和6年度　調査有効回答者数	2,538 人	

※複数回答可のため、各回答者数における割合と調査有効回答者数は一致しません。

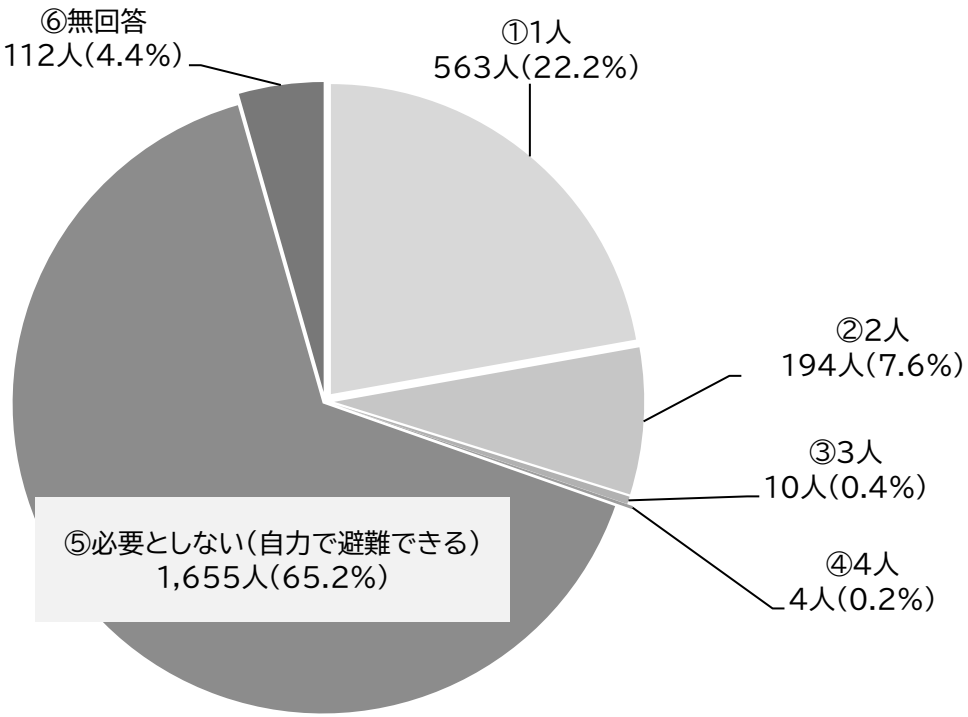


【分析結果・考察等】

・「①自宅（2階への垂直避難など）」以外の立退き避難の避難先として、「⑤指定避難所（公民館など）」を選択した方が 39.1%と最も多く、続いて、「②知人・親戚宅」を選択した方が 23.0%、「③宿泊施設」を選択した方が 1.7%であったことから、市の指定避難所以外の場所に避難する「分散避難」について周知を図り、個々の実情に応じた避難先を検討してもらうことが必要である。

設問６　避難をするにあたり、およそ何人の助けが必要となりますか。（1つだけ）

No.	項目	人数	回答者数における割合
①	1人	563 人	22.2%
②	2人	194 人	7.6%
③	3人	10 人	0.4%
④	4人	4 人	0.2%
⑤	必要としない（自力で避難できる）	1,655 人	65.2%
⑥	無回答	112 人	4.4%
－	令和6年度　調査有効回答者数	2,538 人	



【分析結果・考察等】

・避難をするにあたり、助けを必要としない選択肢である、「⑤必要としない（自力で避難できる）」と回答した方が 65.2%いる一方で、選択肢①～④の一人以上助けが必要な方が、30.4%いることから、避難のための支援者の確保を図る必要がある。